

## 学長室から

竹屋 元裕



## メント・モリ！

先日の学術講演会で「ささえるクリニック岩見沢」の永森克志医師から、久しぶりに『メント・モリ』という言葉聞いた。ラテン語で「死を想え！」、さらに深く解釈すると「死を意識して今を大切に生きよ！」という意味である。古代ローマの凱旋パレードで語られ、中世のペスト流行時に人々の間で囁かれたという。

思えば、私自身は小学生の頃から「メント・モリ」を意識していた。言葉そのものは知らなかったが、夏休みの宿題が溜まって身動きが取れなくなった時、クラスの暴れん坊にいじめられた時、クラス委員として担任から能力を超えた仕事を頼まれた時など、死ぬ事を思えば何でも我慢できると自分に言い聞かせていた。高校時代には『メント・モリ』を過剰に意識したクラスメートが居た。自分の人生はあと1,892,160,000秒だと言う。この友人がその後どんな人生を歩んだかは知らないが、今はもういない。

『メント・モリ』と題する写真集（藤原新也著 朝日新聞出版）がある。インドをはじめとするアジア各地の写真に短い言葉が添えられている。大河の河原で茶毘に付される遺体の写真にはこの

様に記されている。「死というものは、なくずしにヒトに訪れるものではなく、死が訪れたその最期のときの何時かの瞬間を、ヒトは決断し、選ぶとるのです。だから、生きているあいだに、あなたが死ぬための決断力をやしなっておきなさい。「遠くから見ると、ニンゲンが燃えて出すひかりは、せいぜい六〇ワット三時間」。

私に残された時間は、どんなに長く見積もっても946,080,000秒。「メント・モリ」を意識せざるを得ない。



滝の流れは絶えずして、しかも  
もとの水にあらず…

## 「治す医療」から「支える医療」へ

ささえるクリニック岩見沢  
永森 克志院長

## 学術講演会

学術講演会が1月20日（金）、50周年記念館であり、医療法人社団ささえる医療研究所（北海道岩見沢市）の理事長で、ささえるクリニック岩見沢の院長を務める永森克志氏が「治す医療から支える医療へ～岩見沢『ささえるさん』の挑戦～」と題して講演しました。

永森氏は村上智彦医師（故人、八代市出身）とともに、15年前に財政破綻した北海道夕張市に地域包括ケアシステムを構築し、同市の医療体制の再建に尽力しました。講演では、「日本は国民医療費の約2割が80歳以上の医療費であり、入院費がその大半を占める」と指摘。ナイチンゲールの「究極の目的は、すべての病人を家庭で看護すること」という言葉を引用しながら、「老いや死、慢性疾患は『ささえる医療』で対応できる」との考えに基づく実践を紹介しました。

また、永森氏は「病気・健康は自分事と考えることが大事で、予防は「本人たちの意識を変えるツール」だと訴えました。講演会には、永森氏が「環境さえ作れば、誰でも伸びる」との考えのもと、「ささえるさん」の4名のスタッフも参加し、それぞれ自身の経験などを語ってくれました。

（入試・広報課）



講演後、永森院長（後列右から2人目）  
と記念撮影する関係者

仲良く机を並べる、左から稲本さん、北村さん、松田さん、原田さん



## 国試合格へ手を携えて

国家試験を間近に控えたこの時期、各学科の4年次生は合格を期して最後の追い込みに余念がありません。看護学科の稲本有紗さん、北村優花さん、原田成美さん、松田佳乃さんの4人組は毎日、キャンパステラスの一角に陣取って試験勉強に取り組んでいます。

4人は昨年12月から集まり、朝から閉館時間まで学習しています。ホワイトボードを活用してお互いに教え合うこともしょっちゅう。和気あいあいな中にも真剣さが漂います。国試への意気込みを聞いたところ、全員が「合格します！」と元気よく答えてくれました。（入試・広報課）

## 養護教諭目指す4人 熊大別科合格

昨年11月4日（金）に実施された熊本大学養護教諭特別別科試験に緒方彩乃さん、栗原麻衣さん、野尻光さん、三浦千尋さん（いずれも看護学科4年）の4人が合格。今年4月から1年間、同大学特別別科に通いながら、7月に実施される教員採用試験合格を目指します。

### 看護学科

このうち「幼少期から保健室が身近だった」という野尻さんは「自分も子供たちのサポートができれば」と、高校の養護教諭を志望。三浦さんは小児看護実習で重度心身障害児を受け持った経験から看護師免許を持った養護教諭の必要性を実感したそうです。

養護教諭を志す後輩へのアドバイスを求めたところ、緒方さんは「周りが就活しているときにも周りに流されず受験勉強がんばって」とエールを送り、栗原さんは「4年間いろんな選択肢があると思いますが、自分の興味あることに挑戦することが大事」とコメントをくれました。（入試・広報課）

### 今週の1枚

### “壁新聞”もよろしく

毎週金曜日に学内の話題をお届けしている「週刊 NEWSLETTER」。もっと多くの人たちに目を通してもらうため、紙面（A3サイズ）の張り出しを始めました。場所は、取材、編集にあたるアカデミックスキル支援センターとレストランの2カ所。ぜひご覧ください。



### 私のお薦め記事

（このコーナーはDive! LSP 1年生が担当しました）

## 北里柴三郎の新史料発見 / 医学者志した過程示す 熊本大

（熊本日日新聞、2022年12月27日付朝刊22面）

#### 概要

北里柴三郎が医学者を志す過程が分かる史料が「小国町町政史料」の中から見つかった。武士の娘である母の影響から、幼い頃から軍人を目指して時習館に通ったが半年で廃校。その後、安田退三の勧めにより医学の道を進むことを決意する。進学した古城医学校の学費は、北里柴三郎自らが負担したと史料に記されていた。（医学検査学科・渡辺心）

#### コメント

私は、学費を自己負担することは本人にとって大きな負担でありリスクがある選択だと考える。北里柴三郎のように本来の夢を諦めて、新しい道のために進学する場合も少なくはない。その際に少しでも負担を減らすために、現代では奨学金がある。しかし、実際は奨学金を借りても長期返済や利子などの問題が発生する。私は進学したいと思う人々が、経済的な面で諦めることがないように奨学金だけではなく教育全体での見直しが必要だと考える。（医学検査学科・渡辺心）

週間行事予定（2月4日～10日）	
2 / 4（土）	一般選抜
2 / 7（火）	修士論文発表会